

## 学生による授業評価，満足感と成績との関係<sup>1)2)</sup>

成績の悪い学生は本当に授業を酷評するのか？

牧野幸志

### The relationship between student ratings of teaching, satisfaction with the class, and examination scores.

#### Do the student who received poor scores on examination undererate the class ?

Koshi Makino

#### Abstract

The present study was designed to determine the relationship between student ratings of teaching, satisfaction with the class, and the examination scores. Ninety-three undergraduate students took part in a survey by completing a questionnaire. A 2 (examination scores: high, low) × 2 (announcement of the examination scores: before the announcement, after the announcement) factorial design was used. The student ratings of teaching and satisfaction with the class were dependent variables. The results are as follows: (1) Examination scores and their announcement to the students have little effect on the student ratings of teaching. Student who received poor scores on examination do not undererate the class. (2) Examination scores and their announcement to the students have an effect on satisfaction with the class. Student who received poor scores were dissatisfied with the class after they became aware of their scores.

Key words : student ratings of teaching 学生による授業評価, satisfaction with the class 授業への満足度, examination scores 成績, the students who received poor scores 成績の悪い学生.

#### 問 題

現在，非常に多くの大学で学生による授業評価がおこなわれている。その目的は，学生の理解度や授業への要望を知るため，教員の自己点検のため，授業の改善のため，勤務評定のためなど，さまざまである。また，これにともない，授業評価に関する研究も数多くなされている（井上，1993；牧野，2001a, b, c；松田・三宅・谷村・小嶋，1999；三宅，1999；大槻，1993；住田，1996；安岡・高野・成嶋・光澤，1986）。しかしながら，授業

<sup>1)</sup> 本研究は，平成13年度私学共済補助金「教育・学習方法等改善支援経費」の援助のもとに行われたものである。

<sup>2)</sup> 本研究をまとめるにあたり，高松大学 心理学研究会のみなさまに協力をいただきました。記して感謝いたします。

評価とその研究にはいくつかの問題がある。1つは、各研究者、あるいは各大学が独自に授業評価項目を作成し、実施しているため、標準化された授業評価項目リストが存在しないことである。各研究者はそれぞれ妥当性、信頼性の高い授業評価項目を作成しているが、研究者間で同一の授業評価項目が使われていることは少ない。

牧野（2001a, b）は、松田他（1999）の調査項目などに改善を行ない、授業評価項目リスト、自己評価項目リストの作成を行なった。牧野（2001a）は、学生による授業評価に「授業の内容評価因子」、「教員の授業態度評価因子」、「授業の形態評価因子」の3因子を見いだした。授業の内容評価因子は“授業の内容は興味の持てるものであった。”など授業内容の評価に関する因子である。教員の授業態度評価因子は“教員は学生の意見や質問に十分に答えていた。”など教員の授業態度の評価に関する因子である。授業の形態評価因子は“黒板や視聴覚教材（OHP、スライド、ビデオ、OHCなど）を効果的に使っていた。”など授業の形式あるいは形態の評価に関する因子である。また、これらの授業評価の因子と学生の授業への満足度との関連をみている（牧野，2001a, b）。その結果、いずれの授業評価因子も授業への満足度と強い正の相関関係にあり、授業評価が高い学生は満足度も高かった。しかしながら、牧野（2001a, b）では、授業への満足度を測定したが授業の総合評価を測定していなかった。授業評価には、各授業評価項目に回答してもらった後に、最後に総合評価をしてもらうリストが一般的となりつつある（松田他，1999；三宅，1999）。これらは、授業を多角的にとらえるとともにどのような要因が授業の総合的な評価を左右するかを検討することができる。そこで、本研究では、牧野（2001a, b）の項目にさらにいくつかの項目を加え、最後に総合評価を加えることにより、より良い授業評価項目リストを作成する。

授業評価にともなう他の問題の中で重要なものに、「成績の悪い学生は、授業を酷評するのではないか」という懸念があげられる。成績が良くない学生は、その不満、不快感のために授業を不当に低く評価するのではないか、あるいは、成績がよくなかった学生は、その原因を授業が良くなかったためと授業に帰属にするのではないかという問題である。しかしながら、大学において成績結果のフィードバックを行っている授業は少ない。実際には、学期末の試験の前（松田他，1999）か試験の直後（牧野，2001a, b）に行われることが多い。試験の前に実施した場合、学生は自分の成績を知り得ない。また、試験の直後は、ある程度の予測は立つが正確な結果を知らない状態である。したがって、「成績の悪い学生」という場合には、正確には「成績が悪いことが予測できる学生」を指すことが多

い。また、成績を返却した後に授業評価をした場合には「実際に成績が悪かった学生」による授業評価となる。本研究では、試験実施直後と試験の結果をフィードバックした後の2回の授業評価を行ない、成績とそのフィードバックが学生による授業評価に影響を与えるかを検討する。成績の悪いことが予想できる学生、あるいは、実際に悪かった学生は本当に授業を酷評するのかを分析する。

本研究の第1の目的は、学生の成績とそのフィードバックが授業評価に影響を与えるかを検討することである。特に、成績の悪い学生が授業を酷評するのかを調べることである。結果を知りえない試験直後の授業評価では、影響はみられないと予想される。また、第2の目的は、学生の成績とそのフィードバックが授業への満足度に影響を与えるかを検討することである。成績が悪かった学生は、そのことを知らされた後には満足度は下がると予想される。

## 方 法

### 対象授業と被調査者

香川県内の私立T短期大学における平成12年度後期の専門必修科目「社会心理学」（1年生対象）を対象とした。被調査者は、この授業の受講生93名（男性1名、女性92名、平均年齢19.13歳、年齢幅18～20歳）であった。授業は講義形式であり、授業日時は、毎週金曜日3校時（12：50～14：20）であった。クラスサイズは、毎回90名程度であった。担当教員は、男性（教育歴1年6ヶ月）であった。出席はカードリーダーにより管理されており、教員が点呼してとることはなかった。

### 質問紙の構成と成績

学生による授業評価 松田他（1999）、牧野（2001a, 2001b）、西浦・牧野（印刷中）を参考に新たに項目を作成した（21項目）。それぞれの評価項目に対して、「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の5段階で評定を求めた（1～5点）。最後に、授業評価の内容を考慮して、対象授業の総合評価を0～10の11段階で評定してもらった。得点が高いほど評価が高いことを示す。

満足度 授業評価と総合評価を考慮して、この授業への満足度を0～10の11段階で評定してもらった。得点が高いほど対象授業への満足度が高いことを示す。

成績 学生の成績は、試験の結果を利用した。試験は中間試験と期末試験が行なわれた。

いずれも選択問題と記述問題の両方を含んだ筆記試験であり、各50点満点、合計100点満点であった。

## 手続き

本研究では、同じ授業評価を2回行なった。第1回は期末試験の直後であり、被調査者である受講生は、試験は受けているが結果のフィードバックを受けていない。第2回は、試験実施から20日後であり、結果のフィードバックを行なった後である。

フィードバック前授業評価（第1回） 平成12年12月22日の「社会心理学」の期末試験終了後約15分間を用いて授業評価を行なった。調査は、授業へのアンケートの形式で記名式で行なわれた。実施の際に、授業評価は成績評価に関連しないことを強調した。この授業評価の実施時点では、被調査者は、試験を受け終わっているが結果については知らされていない状況である。

フィードバック後授業評価（第2回） 平成13年1月12日の「社会心理学」の授業の際に、期末試験の結果を本人のみにフィードバックした。学生本人から解答用紙提示の依頼があった場合を除き、試験の得点のみを知らせた。得点のフィードバック終了後、授業評価を行なった。2回目の授業評価の実施時点では、被調査者は、既に告知されていた中間試験の結果に加えて、期末試験の結果を知らされ最終的な成績評価を自分自身で知っている状況である。

## 結 果

### 因子分析

学生による授業評価 学生による授業評価（1回目）に関する21項目の評定値に対して因子分析を行った（Table 1）。固有値1を基準とする因子分析（主成分法、バリマックス回転）を行った。因子を抽出する際に、2因子以上に負荷の高い項目（負荷量の差が0.1以下のもの）は除いた。第1因子は“担当教員は信頼できた。”、“担当教員は、学生の意見や質問に十分に答えていた。”、“担当教員に親しみがもてた。”など担当教員に関する項目に負荷が高かった。したがって、これらを「教員評価」因子とした。そして、「教員評価」因子を示す5項目（ $\lambda = .84$ ）の平均を「教員評価」得点として算出した（1～5点、得点が高いほど、担当教員に対する評価が高い）。第2因子は“授業内容は、興味の持てるものであった。”、“授業内容は、将来、役立つものであった。”など5項

Table 1 授業評価項目に対する因子分析の結果（バリマックス回転後）

項目	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	共通性
教員評価					
16. 担当教員は信頼できた。	.869	.216	.134	.091	.828
20. 担当教員は、学生の意見や質問に十分に答えていた。	.711	.154	-.030	.225	.581
21. 担当教員の服装は、清潔感があり好感がもてた。	.642	.220	.307	.136	.572
15. 担当教員に親しみがもてた。	.587	.463	.221	.155	.633
5. 授業内容は、全体としてまとまりのあるものであった。	.568	.125	.287	.262	.490
授業内容評価					
6. 授業内容は、興味を持てるものであった。	.165	.841	.096	.152	.767
9. 授業内容は、将来、役立つものであった。	.164	.685	.177	.036	.528
8. 授業内容は、わかりやすかった。	.394	.638	.252	.161	.652
7. 授業内容は、新鮮なものであった。	.219	.636	.272	.029	.527
1. この授業は、学習の目的がはっきりしていた。	.179	.518	.183	.372	.473
授業準備評価					
18. 担当教員は、十分に授業の準備を行っていた。	.285	.148	.731	.244	.696
4. この授業は、十分な準備がなされていた。	.015	.234	.631	.253	.517
10. 授業内容は、自分の身のまわりの出来事にあてはめて考えることができた。	.233	.286	.590	-.185	.518
成績基準評価					
11. 成績評価の基準（単位認定の基準）が明確であった（テストorレポートなど）。	.241	.142	.012	.837	.779
12. 成績評価の基準（単位認定の基準）が事前にきちんと知らされていた。	.107	-.079	.433	.733	.742
13. 成績評価（単位認定）は、公正に行われていた。	.192	.429	.005	.682	.686
残余項目					
17. 授業中、担当教員のユーモアが感じられた。	.535	.312	.506	.018	.641
19. 担当教員は、わかりやすい例をあげてくれていた。	.527	.224	.526	.070	.610
3. この授業の説明は、わかりやすかった。	.515	.458	.339	.096	.599
14. 担当教員の熱意が感じられた。	.473	.422	.388	.121	.568
2. この授業は、聞き取りやすかった。	.367	.449	.447	.183	.569

目に負荷が高かった。これらは、授業の内容を評価していると捉えられたので「授業内容評価」因子と命名した。これら5項目（ $r = .81$ ）の平均を「授業内容評価」得点として算出した（1～5点，得点が高いほど，授業内容に対する評価が高い）。第3因子は“担当教員は，十分に授業の準備を行っていた。”，“この授業は，十分な準備がなされていた。”など授業の準備に関する項目に負荷が高かったため，「授業準備評価」因子とした。これら「授業準備評価」に関する3項目（ $r = .61$ ）の平均値を「授業準備評価」得点として算出した（1～5点，得点が高いほど，授業の準備に対する評価が高い）。第4因子は，“成績評価の基準（単位認定の基準）が明確であった（テストorレポート）。”，“成績評価（単位認定）は，公正に行なわれていた。”などの3項目に負荷が高かった。これらの項目は，成績評価の基準に関連する項目であったので「成績基準評価」因子とした。3項目（ $r = .79$ ）の平均を「成績基準評価」得点として算出した（1～5点，得点が高いほど，成績評価の基準に対する評価が高い）。

#### 対象授業の評価と成績

対象となった授業の第1回目の総合評価，満足度，学生による授業評価の平均値と標準偏差をTable 2 に示した。授業に対する総合評価は，7.74点（得点範囲0～10点）であり，比較的高かった。また，学生の授業への満足度は7.42点（得点範囲0～10点）であった。各授業評価因子得点の中では，授業準備評価と成績基準評価の平均値が比較的高かった。試験の平均点は，72.26点，標準偏差は15.07であった。

Table 2 「社会心理学」の学生による授業評価，総合評価，満足度（1回目）

	授業評価 <sup>a)</sup>				総合評価 <sup>b)</sup>	満足度 <sup>b)</sup>
	教員	内容	準備	成績基準		
平均値	4.07	4.18	4.52	4.49	7.74	7.42
（標準偏差）	(0.61)	(0.57)	(0.44)	(0.63)	(1.42)	(1.76)

N=93

<sup>a)</sup> 因子の評定値は1～5の値をとりうる（3が「どちらともいえない」に相当）。得点が高いほど評価が高いことを示す。

<sup>b)</sup> 総合評価と満足度は0～10の値をとりうる。いずれも得点が高いほど評価が高いことを示す。

## 成績と学生による授業評価との関係

学生による授業評価が学生の成績とその結果通知（フィードバック）により異なるかを次の方法で検討した。まず、試験結果を基に、学生を成績高得点群（上位30%）と成績低得点群（下位30%）に分類した。また、成績のフィードバックの影響を検討するため、フィードバックの前後で授業評価を行なった。分析は、成績（上位・下位）×フィードバック（前・後）の2要因分散分析（1between 1within）で行なった。従属変数は、総合評価、教員評価、授業内容評価、授業準備評価、成績基準評価、満足度であった。

**総合評価** 総合評価得点に対して、成績とフィードバックの2要因分散分析を行なった。その結果、主効果、交互作用ともに有意な差はみられなかった（Table 3 参照）。総合評価は、学生に成績により差はみられず、フィードバックの前後においても差がみられなかった。

**教員評価** 教員評価因子得点に対して、2要因分散分析を行なった。その結果、交互作用が有意であった（ $F=7.01$ ,  $df=1$ ,  $p<.05$ ）。下位検定の結果、成績低得点群（下位群）では、フィードバック前（ $M=4.23$ ）と比べフィードバック後（ $M=4.04$ ）に教員評価が下がっていた（Table 4, Figure 1 参照）。

**授業内容評価** 授業内容評価因子得点に対して、2要因分散分析を行なった。その結果、主効果、交互作用ともに有意な差はみられなかった（Table 5 参照）。授業内容に対する評価は、学生の成績により差はみられず、フィードバックの前後においても差はみられなかった。

**授業準備評価** 授業準備評価因子得点に対して、2要因分散分析を行なった。その結果、フィードバックの主効果が有意であった（ $F=7.28$ ,  $df=1$ ,  $p<.01$ ）。授業の準備に対

Table 3 成績とその通知による総合評価の差異

成績 <sup>1)</sup>	成績通知	フィードバック前 <sup>2)</sup>	フィードバック後 <sup>3)</sup>
高得点群（上位30%） $N=31$ , $M=89.42$		8.03	8.13
低得点群（下位30%） $N=31$ , $M=56.69$		7.87	7.39

注1)  $M$ は、各得点群の平均値を示す。テストは100点満点であり、全体の平均値（標準偏差）は、72.26（15.07）である。

注2) テスト実施直後における評価であり、成績のフィードバックは行なっていない。

注3) 試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、0～10点の得点を取りうる。

する評価は、フィードバック前 ( $M=4.61$ ) に比べ、フィードバック後 ( $M=4.45$ ) に低下していた (Table 6 参照)。

**成績基準評価** 成績基準評価因子得点に対する 2 要因分散分析を行なった結果、成績の主効果が有意であった ( $F=4.15$ ,  $df=1$ ,  $p<.05$ )。成績低得点群 ( $M=4.49$ ) は、成績高得点群 ( $M=4.75$ ) よりも成績を判定する基準に関する評価が低かった (Table 7 参照)。

**授業への満足度** 授業への満足度得点に対して、2 要因分散分析を行なった。その結果、交互作用が有意であった ( $F=4.48$ ,  $df=1$ ,  $p<.05$ )。下位検定の結果、成績低得点群 (下位群) では、フィードバック前 ( $M=7.55$ ) と比べフィードバック後 ( $M=7.00$ ) に授業への満足度が下がっていた (Table 8, Figure 2 参照)。また、フィードバック後は、低得点群 ( $M=7.00$ ) の方が、高得点群 ( $M=8.19$ ) よりも授業への満足度が低かった。

Table 4 成績とその通知による授業評価の差異 (教員評価)

成績 <sup>1)</sup>	成績通知	フィードバック前 <sup>2)</sup>	フィードバック後 <sup>3)</sup>
高得点群 (上位30%) $N=31$ , $M=89.42$		4.14	4.21
低得点群 (下位30%) $N=31$ , $M=56.69$		4.23	> ** 4.04

注 1)  $M$ は、各得点群の平均値を示す。テストは100点満点であり、全体の平均値 (標準偏差) は、72.26 (15.07) である。

注 2) テスト実施直後における評価であり、成績のフィードバックは行なっていない。

注 3) 試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、1～5点の得点を取りうる。

表中の不等号は、その間の交互作用の単純主効果が有意であることを示す (\*\*  $p<.01$ )。

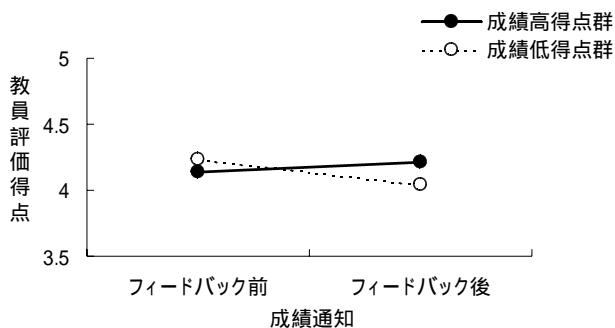


Figure 1 . 成績とその通知による教員評価の差異



Table 5 成績とその通知による授業評価の差異（内容評価）

成績 <sup>1)</sup>	成績通知	フィードバック前 <sup>2)</sup>	フィードバック後 <sup>3)</sup>
高得点群（上位30%） N = 31, M = 89.42		4.21	4.32
低得点群（下位30%） N = 31, M = 56.69		4.28	4.16

注1) Mは、各得点群の平均値を示す。テストは100点満点であり、全体の平均値（標準偏差）は、72.26（15.07）である。

注2) テスト実施直後における評価であり、成績のフィードバックは行なっていない。

注3) 試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、1～5点の得点を取りうる。

Table 6 成績とその通知による授業評価の差異（授業準備評価）

成績 <sup>1)</sup>	成績通知	フィードバック前 <sup>2)</sup>	フィードバック後 <sup>3)</sup>
高得点群（上位30%） N = 31, M = 89.42		4.61	4.49
低得点群（下位30%） N = 31, M = 56.69		4.61	4.41

注1) Mは、各得点群の平均値を示す。テストは100点満点であり、全体の平均値（標準偏差）は、72.26（15.07）である。

注2) テスト実施直後における評価であり、成績のフィードバックは行なっていない。

注3) 試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、1～5点の得点を取りうる。

表中心部の不等号は、その方向の主効果が有意であることを示す（\* $p < .05$ ）。

Table 7 成績とその通知による授業評価の差異（成績基準評価）

成績 <sup>1)</sup>	成績通知	フィードバック前 <sup>2)</sup>	フィードバック後 <sup>3)</sup>
高得点群（上位30%） N = 31, M = 89.42		4.70	4.80
低得点群（下位30%） N = 31, M = 56.69		4.51	4.47

注1) Mは、各得点群の平均値を示す。テストは100点満点であり、全体の平均値（標準偏差）は、72.26（15.07）である。

注2) テスト実施直後における評価であり、成績のフィードバックは行なっていない。

注3) 試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、1～5点の得点を取りうる。

表中心部の不等号は、その方向の主効果が有意であることを示す（\* $p < .05$ ）。

## 考 察

本研究の第1の目的は、学生の成績とそのフィードバックが授業評価に与える影響を検討することであった。特に、成績の悪い学生が授業を酷評するのかを調べることであった。また、第2の目的は、学生の成績とそのフィードバックが授業への満足度に与える影響を検討することであった。

まず、授業評価リストの検討を行なった。本研究では、松田他（1999）、牧野（2001a, b）、西浦・牧野（印刷中）を参考にして、授業評価項目リストを再構成して用いた。新たに加わった項目もあったため、因子分析を用いて、その構造を分析した。その結果、4因子構造がみられた。教員の授業態度、教員への信頼に関係する「教員評価因子」と授業のわかりやすさ、授業への興味など授業の内容に関する「授業内容評価因子」は、松田他（1999）、牧野（2001a, b）、西浦・牧野（印刷中）においても同様にみられている因子

Table 8 成績とその通知による授業への満足度の差異

成績 <sup>1)</sup>	成績通知	フィードバック前 <sup>2)</sup>	フィードバック後 <sup>3)</sup>
高得点群（上位30%） <i>N</i> = 31, <i>M</i> = 89.42		8.10	8.19 *
低得点群（下位30%） <i>N</i> = 31, <i>M</i> = 56.69		7.55	> * 7.00

注1) *M*は、各得点群の平均値を示す。テストは100点満点であり、全体の平均値（標準偏差）は、72.26（15.07）である。

注2) テスト実施直後における評価であり、成績のフィードバックは行っていない。

注3) 試験から20日後のフィードバック後の授業評価である。

評定値は、0～10点の得点を取りうる。

表中の不等号は、評定値間のその方向に有意差があることを示す（単純主効果、\*  $p < .05$ ）。

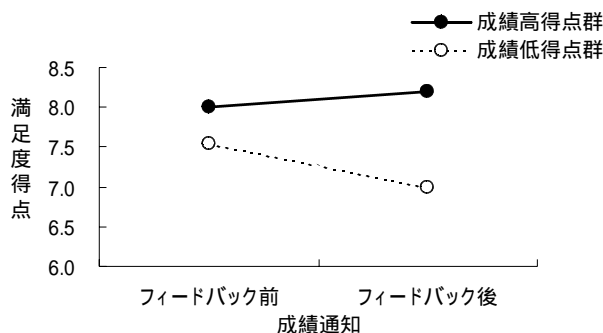


Figure 2 . 成績とその通知による満足度の差異

である。これらの2つの要因は、授業を評価するうえで、核となるものであろう。本研究では、これらの因子の他に授業の準備に関する「授業準備評価因子」と成績評価の基準に関する評価である「成績基準評価因子」がみられた。授業準備評価は、担当教員がどれだけ準備しているか、準備がなされた授業内容だったかを評価するもので「教員評価」と「授業内容評価」と密接に関連していると考えられる。また、成績基準評価は、学生にとって重要である成績判定の基準について評価するものであった。これらの項目は、西浦・牧野（印刷中）にて用いられていたものであった。成績基準、またその明示が総合評価に影響を与えるかについては今後検討していく。本研究で使用した授業評価リストは信頼性も高く、問題はなかったといえる。

学生の成績とそのフィードバックにより、授業評価が異なるかを検討した。授業の総合評価得点は、試験の高得点者、低得点者によって違いはみられなかった。また、成績をフィードバックしたあとも総合評価得点は変化していなかった。つまり、成績のフィードバック前においてもフィードバック後も成績により授業評価は異ならなかった。成績の悪い学生が授業を酷評する傾向はみられなかった。しかしながら、授業評価の詳細を見てみると評価内容により違いがみられた。教員評価においては、成績の悪かった学生は、成績のフィードバック後に教員の評価を下げていた。知らされた成績が悪かったため、担当教員への評価を下げたと考えられる。授業内容評価においては、成績とそのフィードバックにより評価が異なることはなかった。学生は、その成績にかかわらず授業内容を比較的高く評価し、その評価は成績フィードバック後も変わらなかった。また、授業準備評価では、学生はフィードバック後に評価を下げていた。これは、予想していなかった結果であり、解釈が困難であった。成績基準評価は、成績の良い学生の方が悪い学生に比べ高かった。成績の良い学生は、フィードバック前後いずれでも成績評価の基準を高く評価していたが、成績の悪い学生は成績評価の基準を低く評価していた。

以上のことから、学生による授業評価は、評価を行なう学生の成績によりほとんど左右されないことが示された。特に、フィードバック前に行なう授業評価においては影響がみられなかった。一部の評価でフィードバックの影響が多少みられた。教員評価では、成績の悪い学生はフィードバック後に教員の評価を下げていた。

次に、学生の成績とそのフィードバックが授業への満足度に影響を与えるかを検討した。授業への満足度得点は、成績とフィードバックの影響を大きく受けていた。成績の悪い学生は、成績結果のフィードバック後に満足感が下がっていた。つまり、自分の試験結果を

知った後の満足感は、知る前よりも下がっていた。試験結果が悪かったことを知り、授業への満足感も下がったと思われる。また、フィードバック後においては、成績が悪かった学生は、良かった学生よりも満足感が低かった。フィードバック前には差がなかったことから考えると、結果のフィードバックにより、自分の成績が明確になることで、成績が悪かった学生は満足感が下がったと考えられる。

本研究の結果から、学生による授業評価は、評価を行なう学生の成績により影響をほとんど受けないことがあきらかとなった。つまり、成績の悪い学生が授業を過小評価する傾向はみられなかった。この傾向は、成績をフィードバックする前において顕著にあらわれていた。したがって、授業評価は試験結果の通知後よりも通知前に行なう方が効果的であるといえる。他方、授業への満足感は、学生の成績とフィードバックの影響を受けていた。成績の悪い学生は、成績結果の通知後に満足感が下がっていた。このことから、成績は学生の授業への満足度に影響を与えることがわかる。

今後の課題として、成績のフィードバックにおいて解答用紙のフィードバックを行なうことがあげられる。本研究では、本人から「解答用紙を見せて欲しい」との依頼があった場合を除いて、成績結果として点数のフィードバックだけを行なった。したがって、被調査者の中には通知された成績結果に疑問、あるいは不満をもったまま2回目の授業評価を行なった学生がいた可能性がある。成績結果と同時に結果への疑問、不満がその後の授業評価に影響を与えるであろう。したがって、今後は解答用紙を返却するとともにその時点での成績評価への不満なども測定する必要がある。また、本研究では、期末試験後に第1回の授業評価を実施した。したがって、学生はある程度自分の試験での手ごたえを知った上で回答していた。試験の影響を完全になくすためには、自分の成績が全く予測し得ない状態で授業評価を行なう必要がある。つまり、それぞれ試験実施前、試験実施後、フィードバック後に授業評価を行ない、比較してみる必要があるだろう。

#### 引用文献

- 井上正明 1993 学生による授業評価の方法論的考察 大学の授業評価に関する実証的研究(8) 福岡教育大学紀要, 42, 277 - 291.
- 牧野幸志 2001a 学生による授業評価と自己評価, 成績, 及び学生の満足感との関係 教養選択科目「社会心理学」の場合 高松大学紀要, 35, 1 - 16.
- 牧野幸志 2001b 学生による授業評価と自己評価, 成績, 及び学生の満足感との関係 専門必修科目「人間関係論」の場合 高松大学紀要, 35, 17 - 31.
- 牧野幸志 2001c 学生による授業評価の規定因の検討(1) - 多変量解析を用いた因果モデルの検討

- 高松大学紀要, 36, 55 - 66.
- 松田文子・三宅幹子・谷村 亮・小嶋佳子 1999 学生による授業評価と自己評価, 授業選択態度, 及び成績の関係 教職必修科目「生徒指導論」の場合 広島大学教育学部紀要 第一部(心理学), 48, 121 - 130.
- 三宅幹子 1999 大学生における授業選択態度のタイプと授業評価, 自己評価, 及び成績の関係 広島大学教育学部紀要 第一部(心理学), 48, 141 - 148.
- 西浦和樹・牧野幸志 2002 教師の実践的力量向上のための授業改善の試み - 学生による授業評価の要因分析 - 日本教育工学会誌, 印刷中.
- 大槻 博 1993 多摩大学の学生による授業評価「ボイス」をめぐる考察 一般教育学会誌, 15, 47 - 49.
- 住田幸次郎 1996 学生による「授業評価」に関する数量的分析 ノートルダム女子大学研究紀要, 26, 23 - 40.
- 安岡高志・高野二郎・成嶋 弘・光澤舜明 1986 学生による講義評価 一般教育学会誌, 8, 46 - 59.
- 安岡高志・吉川政夫・高野二郎・峯崎俊哉・成嶋 弘・光澤舜明・道下忠行・香取草之助 1989a 学生による講義評価 学生の質と講義評価の関係について 一般教育学会誌, 11, 56 - 59.
- 安岡高志・吉川政夫・高野二郎・峯崎俊哉・成嶋 弘・光澤舜明・道下忠行・香取草之助 1989b 学生による講義評価 成績と講義評価の関係 一般教育学会誌, 11, 99 - 102.

高松大学紀要

第 38 号

平成14年 9月25日 印刷

平成14年 9月28日 発行

編集発行 高松大学  
高松短期大学  
〒761-0194 高松市春日町960番地  
TEL (087) 841 - 3255  
FAX (087) 841 - 3064

印刷 株式会社 美巧社  
高松市多賀町 1 - 8 - 10  
TEL (087) 833 - 5811